



JKC

のご案内

一般社団法人 ジャパン ケネル クラブ

一般社団法人ジャパンケネルクラブ（JKC） の活動について

本会は、純粋犬種の犬籍登録、有能・優良犬の普及、畜犬の飼育の指導奨励、動物愛護精神の高揚を主な目的として活動しております。また、世界 89 カ国が加盟する FCI（国際畜犬連盟）に加盟しており、世界に通じる血統証明書を発行する、国際的なケネルクラブです。さらに、災害救助犬の育成など、犬を通しての社会貢献にも積極的に取り組んでおります。



JKC マスコットキャラクター ジャック

犬籍登録事業

純粋犬種の犬籍登録と、血統証明書の発行を行っています。血統証明書を発行することで、国内の純粋犬種の保護と質的向上に努めています。

展覧会・競技会事業

ドッグショーや競技会の開催を行っています。犬種の理想像（スタンダード）に近い犬を繁殖したり、競技会で訓練や知識を高めるとともに、多くの人々が愛犬とともに参加できる場となっています。

災害救助犬育成事業

災害大国である日本のため、災害救助犬を育成しています。有事に備え、出動可能な災害救助犬を全国に配備しております。

JKC の 主な事業

正しい畜犬の飼育指導奨励、 動物愛護精神の高揚

夏休み犬の絵コンクール、写真コンテストなど、各種コンクールを通して、動物愛護精神の高揚を図っております。

犬を通じた 社会への貢献

高齢者施設やホスピスなどを訪問し、多くの方に犬とのふれあいの喜びを感じていただいております。

創 立
傘下クラブ数
クラブ会員数
年間登録数
理 事 長
副 理 事 長
専 務 理 事
理 事

監 事

1949 年
約 900 クラブ（正会員）
約 80,000 名
約 307,000 頭（2024 年）
森崎隆弘
佐藤重男
川田良浩、藤田 透
上原勝三、浅野享男、三角 誠、鈴木教之、瓜生真砂己、
西村亮平、山田珠代、本田明彦、小笠原一男、鈴木好美、
渡邊東洋彦、蓮井清美、新田邦善、園田真一、上村光康
菊池嘉光、相澤知敬



2024 年犬種別犬籍登録頭数（1 月～12 月）

「犬種別犬籍登録頭数」とは、1 月～12 月までの 1 年間に本会の血統データに新規に血統登録され、血統証明書が発行された犬の頭数です。

順位	犬 種	登録頭数
1	プードル	76,543
2	チワワ	47,313
3	ダックスフンド	29,262
4	ポメラニアン	21,783
5	ミニチュア・シュナウザー	15,137
6	マルチーズ	10,495
7	フレンチ・ブルドッグ	10,129
8	ヨークシャー・テリア	8,444
9	シー・ズー	8,210
10	ゴールデン・レトリバー	7,275
11	ビション・フリーゼ	6,783
12	パグ	5,077
13	柴	4,582
14	ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	4,292
15	ボーダー・コリー	3,841
16	ペキニーズ	3,664

17	パピヨン	3,635
18	ラブラドル・レトリバー	3,580
19	ジャック・ラッセル・テリア	3,259
20	キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	3,123
21	ミニチュア・ピンシャー	2,953
22	イタリアン・グレーハウンド	2,897
23	シベリアン・ハスキー	2,560
24	シェットランド・シープドッグ	2,496
25	ボストン・テリア	2,310
26	アメリカン・コッカー・スパニエル	2,130
27	ビーグル	2,029
28	日本スピッツ	1,433
29	バーニーズ・マウンテン・ドッグ	1,262
30	ブルドッグ	1,132
合計	139 犬種	306,642 頭
※ 1 トイ 73,125・ミニチュア 235・ミディアム 283・スタンダード 2,900		
※ 2 カニーンヘン 6,857・ミニチュア 22,308・スタンダード 97		

【ご注意】1 年間分の頭数しか日本にいないということではありません。犬の寿命を 10 年～15 年と仮定した場合に、その期間の登録数を積算することにより、およその頭数は把握できると思われます（ただし、登録後の死亡・輸出の頭数は含まれません）。

沿 革

1949 年 J K C（旧社団法人全日本警備犬協会）創立
1950 年 第 1 回本部展＝創立展（上野公園）
1952 年 ジャパン・ケネル・クラブ（J K C）の名称採用
1972 年 公認トリマー制度発足
アジア畜犬連盟（A K U）結成
1979 年 国際畜犬連盟（F C I）へ正式加盟
1982 年 F C I 東京ワールドショー開催
1986 年 個人会員制から団体クラブ会員制へ定款改正
1987 年 コンピュータによる血統証明書発行開始
1991 年 災害救助犬育成開始
1995 年 阪神淡路大震災に対する本会の災害救助活動
に対して、農林水産大臣より感謝状拝受
1996 年 愛犬の飼育電話相談室開設
1999 年 創立 50 周年
社団法人ジャパンケネルクラブと改称
台湾大地震に災害救助犬を派遣
2000 年 会報『家庭犬』創刊 500 号
2001 年 10 月第 1 日曜日～第 2 日曜日を J K C 愛犬週間
と制定し、愛犬デー行事を開催
2002 年 福島県西郷村に東日本災害救助犬訓練施設を建設
2003 年 D N A 登録開始
2004 年 創立 55 周年を記念し、全国の政令指定都市等にある
高齢者福祉施設に介護車輛寄贈
2005 年 種社の D N A 登録義務化

2006 年 血統証明書への遺伝性疾患情報記載を開始
2007 年 J K C ブリーディングアワード創設
第 1 回ジャパンドッグフェスティバル（J D F）開催
「J K C 愛犬飼育管理士」資格制度を発足
2008 年 岩手・宮城内陸地震に災害救助犬を派遣
2009 年 創立 60 周年を記念し、
大阪でジャパンドッグフェスティバルを開催
2010 年 インターネットポータルサイト
「JKC 犬のひろば」開設
2011 年 東日本大震災に災害救助犬を派遣
2013 年 一般社団法人ジャパンケネルクラブに移行
2016 年 熊本地震に災害救助犬を派遣
FCI 展・本部訓練競技大会の出陳犬に
マイクロチップの記載登録を義務付け
2018 年 平成 30 年 7 月豪雨災害、
北海道胆振東部地震に災害救助犬を派遣
2019 年 創立 70 周年
2020 年 世界的に感染拡大した新型コロナウイルス感染症
により、多くのイベント開催中止を余儀なくされる
2021 年 一般社団法人ジャパンケネルクラブ初の
公式マスコットキャラクター ジャック誕生
2024 年 創立 75 周年
令和 6 年能登半島地震に災害救助犬を派遣

国際公認血統証明書の発行



※ 3代祖血統証明書見本

ジャパンケネルクラブでは、純粋犬種の血統を管理し、より質の高い犬を繁殖するための祖先犬の情報を血統証明書という形で提供しています。

血統証明書は同一の犬種の父母犬によって生まれた子犬に対して発行され、子犬の名前・生年月日・性別・毛色・登録番号などのほか、両親・祖先についての情報も記載され、その犬がどのような血統のもとに作出されたかを表わしています。また、2003年からはより正確な血統登録のため父犬のDNA登録を導入しております。

また、愛犬の個体識別や所有者名明示、災害時等の迷い子対策等のための、マイクロチップ登録も実施しています。

本会発行の血統証明書は世界各国のケネルクラブとの犬籍を相互承認することにより、世界に通じる「国際公認血統証明書」となっております。

ドッグショー

ドッグショーは、犬の姿形を審査し、それぞれの犬種の理想にもっとも近い犬を評価する目的で行われるものです。

年間約200回開催されるドッグショーのうち、毎年4月に開催する「JKC サクラ・アニュアル・ショー」は、130犬種 2,000頭の純粋犬種が一室に会する、アジア最大のドッグショーです。



ハンドリングコンペティション



ジュニアハンドリングコンペティション



災害救助犬実演



JKC サクラ・アニュアル・ショー 2025 BIS (ベストインショー) 審査。



複数犬クラスの審査



ドッグダンス実演



各種コンテスト優秀作品の展示ブース



触審の様子



JKC マスコットキャラクター ジャックも会場を盛り上げます



ショッピングモール

ドッグショーの他に、トリマーの技術を競う「トリミング競技大会」、ドッグショーで犬をコントロールする技術を競う「ハンドリングコンペティション」、少年少女による「ジュニアハンドリングコンペティション」も併催され、ドッグダンスや災害救助犬の実演なども開催されます。毎年3万名を超える愛犬家が集まります。



各種競技大会の開催、各種コンクールの開催

ジャパンケネルクラブでは、訓練競技会、アジリティー競技会、フライボール競技会、トリミング競技会、ハンドリング競技会などを開催したり、「夏休み犬の絵コンクール」「愛犬とのふれあい写真コンテスト」などのコンクールの実施を通して、犬の素晴らしさや犬と暮らす楽しさを広く伝えています。

トリミング競技大会

ジャパンケネルクラブでは、トリマー（犬の美容師）の公認資格を1973（昭和48）年から発行しております。現在、全国の41スクールを本会公認トリマー養成機関としてトリマーの育成を行っています。また、年に一度、全国予選入賞者を対象とした本会主催のトリミング競技大会を開催して、技術の向上を図っています。



訓練競技大会

犬が社会の一員として幸せに暮らしていくためには、飼い主と犬がマナーを守る必要があります。そのためにきちんとした「しつけ・訓練」が欠かせないことはいまでもありません。ジャパンケネルクラブでは、日頃のしつけ・訓練の完成度の発表の場として家庭犬訓練競技会を全国各地で年間約30回開催しており、春と秋に開催する本部大会には、それぞれ約700頭もの犬が集まります。



フライボール競技大会

フライボール競技は、犬が4つのハードルを飛び越えて、その先にあるボックスのペダルを押し、飛び出すボールをくわえて、再びハードルを飛び越えてスタートラインに戻るタイムを競う楽しい競技です。競技会は全国各地で開催する訓練競技会に併催して行われ、たくさんの犬がチャレンジしています。



アジリティー競技大会

アジリティー競技は、犬と人が一体となってさまざまな障害を一定の時間内にクリアするスピード感あふれるドッグスポーツの代表です。犬も指導手もギャラリーも大興奮。家族揃って、仲間同士で、犬好きが揃って楽しむことの出来る、ホットなスポーツです。年間を通して全国で競技会が開催され、年に一度開催する本部大会には700頭を超える出場があります。



ハードル



ウィービング・ボール

災害救助犬の育成



令和6年能登半島地震に出勤する本会災害救助犬

地震などの災害時に、被災者の捜索活動を行うのが災害救助犬です。ジャパンケネルクラブでは、地震多発国である我が国の現状から、1991年より災害救助犬の育成に取り組んでいます。

本会認定犬は阪神淡路大震災や台湾大震災、岩手・宮城内陸地震へも出勤し、2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震、2024年の令和6年能登半島地震においても被災者の捜索にあたりました。

現在、本会では出勤可能な136頭（2024年4月現在）の公認災害救助犬を有し、東京消防庁や京都府、岐阜県など全国の1消防庁21自治体等と出勤協定を締結し、有事に備えています。

また年に一度、本会災害救助犬訓練施設において、公認災害救助犬の日頃の訓練と実力を確認する場として、災害救助犬競技大会を開催しています。



2024年災害救助犬競技大会より

社会福祉への貢献・動物愛護精神の普及

犬を通しての社会福祉への貢献と動物愛護精神の普及のため、各種コンテストの実施や、地域に密着したさまざまな活動を行っています。

▼各種コンクール

愛犬とのふれあいの俳句

季節の移ろいと、愛犬へのさまざまな感慨を織り交ぜた作品が、年間約1,000句も寄せられています。

夏休み犬の絵コンクール

毎年、9月に開催する犬の絵コンクールは全国各地の小学校・絵画教室の子供たちから約10,000点の作品が寄せられます。



2024年最優秀賞作品



2024年優秀賞作品

愛犬とのふれあい写真コンテスト

毎年、7月に開催する写真コンテストには、全国各地から約700点もの心温まる作品が寄せられます。



2024年最優秀賞作品



2024年優秀賞作品

本会会報誌・サイトなどのご紹介

会報

『JKC ガゼット』

年に10回、会員向けに発行される会報誌。
犬のしつけや医療・雑学などの特集や、イベントスケジュール、レポートなど幅広く掲載。



会報『JKC ガゼット』（定価150円※会費に購読料が含まれます）

JKC マスコットキャラクター ジャック

2021年に誕生した初の公式マスコットキャラクター。各種イベントで活躍中。



JKC HP「ジャックの日常」にて、
ブログを随時更新中。

ジャパンケネルクラブ 公式サイト

イベントや本会に関するさまざまな情報を配信しています。

<https://www.jkc.or.jp>



◀こちらから
アクセス！



一般社団法人ジャパンケネルクラブ

〒101-8552 東京都千代田区神田須田町1-5

TEL03-3251-1651 ~ 6 FAX03-3251-1659

(2025年8月現在)